

第1回当別町総合計画審議会 要旨

1 日時 令和8年5月29日(金)10時00分から11時25分

2 場所 当別町役場第2庁舎 2階会議室

3 出席者

下段委員、川村委員、浅野委員、松岡(良)委員、松岡(宏)委員、宮永委員、曾川委員、後藤委員、九筈委員、喜多委員、高橋委員、佐藤委員、多久委員(13/17人出席)

4 町出席者

企画部長 山田雅俊、企画課長 星野寿幸、企画係長 高田龍一、企画係主任 田中大樹、企画係主事 乾拓朗

5 傍聴者 なし

6 審議会要旨

(1) 当別町長挨拶(町長は別公務により、副町長より代理挨拶)

皆さん、おはようございます。副町長の乗木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日は町長が別公務のため、私から代理でご挨拶申し上げます。

皆様にはご多忙のところ、本審議会の委員をお引き受けいただき、心より感謝申し上げます。総合計画は、まちの将来の方向性を定める最も重要な計画の一つです。策定に当たっては、各分野から幅広くお力添えをいただけることを大変心強く感じております。現在の総合計画は令和12年度まで、総合戦略は令和7年度までを計画期間としておりますが、令和5年9月に北海道医療大学の移転が公表されたことを踏まえ、現行のスケジュールのままでは今後のまちの方向性とずれが生じるおそれがあります。このため、総合計画は3年前倒しし、総合戦略は2年延長したうえで、令和9年度からの新たな計画として一体的に策定を進めていきたいと考えております。

現在の総合計画の策定以降、本町では義務教育学校の開校やロイズタウン駅の開業、さらに西当別支所の整備など、新たな形のまちづくりを進めてまいりました。最近では、IKEAによる期間限定の出店もあり、未来に向けて蒔いてきた種が少しずつ実を結びつつあると感じております。

一方で、石狩管内に目を向けると、次世代半導体関連産業の進出や、AIなど新たな技術・産業の動きが広がっており、これまでになかったビジネス機会が北海道に根づきつつあります。当別町においても、こうした変化を踏まえ、今後のまちづくりにどう取り込んでいくかを考える必要があります。

また、昨年度策定した人口ビジョン改訂版では、何も対策を講じなければ、2035年に12,014人、2050年には8,812人まで人口が減少する見込みが示されています。これらはあくまで推計ではありますが、人口減少の幅を少しでも緩和できる可能性も示されており、そのための方策を新たな計画にしっかり盛り込んでいきたいと考えております。ただし、実現が困難な目標だけを掲げるのではなく、将来推計を見据えながら、いわゆる身の

丈に合ったまちづくりという視点も今後は重要になると考えております。こうした点について、ぜひ皆様から率直なご意見を賜りたいと思っております。

総合計画は、本町の将来を見据え、今後のまちづくりの方向性を示す重要な指針です。さまざまな立場からご意見をいただき、多くの町民にとって、そして北海道に住む方々にとっても希望の持てる計画として策定していくことが必要だと考えております。皆様におかれましては、それぞれのお立場やご経験から忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げ、今後のご協力を心よりお願い申し上げます。簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(1) 委員等の紹介

委員名簿の順に紹介。

当別町行政推進員連絡協議会からの推薦者 1 名は、昨日役員改選が行われたところであり後日推薦をいただくため、決まり次第改めて連絡させていただきます。

※副町長においては、別用務により退席

(2) 会長及び副会長の選出

当別町総合計画審議会条例第 5 条の規定に基づき、委員の互選により定めることとなるが事務局よりご提案してもよろしいか。

(異議なし)

会長には下段委員、副会長には浅野委員を提案。

(全委員、選任に関し異議なし)

会長 下段委員、副会長 浅野委員に決定。

(3) 会長挨拶

ただいま会長に選任されました商工会の下段です。当別町の今後のまちづくりの方向性を示す第 7 次総合計画の策定に関する審議会ということで、大変身の引き締まる思いであります。本町においては、令和 10 年度に北海道医療大学が北広島へ移転する予定であり、町のあり方について大きな転換を迎えることとなります。このような中での総合計画策定ということで、これまでの計画の延長ではない新たな視点での取り組みも必要となってくると考えております。本審議会では、各いろいろな立場の皆様にご参加いただいております。当別町の未来を示す良い計画となるよう推し進めていただければと考えております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(議題)

(4) 当別町総合計画審議会について／当別町総合計画について

事務局より資料 1、2-1、2-2、2-3 をもとに説明。（説明：星野課長）

（九笹委員）

資料 2-3「総合戦略（第 2 期）数値目標・KPI 一覧表」の説明について、振り返りを行うという理解で良いか。なぜ目標達成できたか、あるいはできなかったか、改めて振り返った上で、次のステップ、目標に進めていくべきと考える。単に実績数字を並べるだけでなく、要点を押さえて進めるべきと考える。

（事務局）

策定スケジュールでも触れさせていただくが、資料は令和 6 年度末の実績を示しており、現在、令和 7 年度末の実績について作成中である。それを踏まえた上で、総合計画審議会のほか、総合戦略推進委員会も設置しており、毎年 8～9 月を目途に、会議内で各プロジェクトの進捗状況や振り返りを詳細に説明の上、推進管理を行っている。それらの振り返りを踏まえた上で、次期総合計画・総合戦略を策定していく。

（5）当別町人口ビジョン改訂版について

事務局より資料 3 をもとに説明。（説明：星野課長）

（宮永委員）

資料 3 の前提条件について、信憑性はどの程度のものと考えているか。現状趨勢とは、最悪の数値という解釈であるか。

（事務局）

ケーススタディの見方としては、ケース A は、何も取り組みをしない場合の推計である。人口減少はやむを得ないが、減少幅は緩和できると考えている。条件設定した合計特殊出生率については、全国平均は 1.15 であるが、全道では低く 1.0 を切っている。

（宮永委員）

千歳市に Rapidus が入ってきたことにより、千歳までの道路整備が進むことも予想されるが、それらを加味することも必要と考える。例えば国道 337 号の全面開通により当別町の状況は変わる可能性も考えられ、東京からの流入が起こる可能性もあり、それらを考慮していくべきと考える。

（事務局）

近隣市町村も含めて、337 号線の全線開通に向けた国への働きかけは行っているが、現時点でいつ全線開通するかまでは予定が立っていない。次期計画は 10 年間の計画になるので、337 号線が開通した時のまちづくりについて、企業誘致を含めて方向性として示すべきと考えている。

（松岡良尚委員）

町に確認すべき点ではないかもしれないが、生産年齢人口の定義について、15～64 歳と

いう考え方は変わるのか。今後は 65 歳以上も働くことが実際には多くなってくると感じる。

(事務局)

実態に合っていないところもあるが、国の決めている定義に合わせている。一方で、町の実態を見て把握しているという観点は重要になると考える。生産年齢人口の定義を変えるという話ではなく、町として把握するやり方はあると考えられる。

(宮永委員)

資料に記載の「利用者の約 95%を学生が占めている」について、95%の算出根拠は何か。

(事務局)

北海道医療大学駅の乗降客数をベースに調査している。実際の具体的な数字はないが、95%の学生が減少することから大きな影響が出ると整理している。大学の跡地活用の検討も進めており、活用された際には利用者も増えることが想定されることから、その点も次期計画で重要なポイントかと考える。

(後藤委員)

前回策定時の会議にも参加していたが、大学移転というまちづくりの根幹に関わるものがあつたが、計画においても大きな変更点は多い想定か。また、人口は維持していくのか、増やしていく方向性なのか。加えて、前回策定時は、終盤にロイズタウン駅と道の駅について最後に盛り込まれた経緯があり、コンパクトシティを進めるとしていた中で、新たな都市づくりの文脈が入ったことにより困惑したところもあった。

(事務局)

第 2 回目以降では、町から諮問をさせていただき、町の方でまとめた総合計画と総合戦略の素案をある程度お示しさせていただきたい。その上で、審議会の中で説明させていただいた中で、皆様からのご意見を頂戴したい。人口については、現在の総合計画では 2030 年までに 16,000 人、2060 年までに 20,000 人を想定していたが、全国的に人口減少が続く中で、当別町だけ人口が増えることは考えにくい点もあり、不確定事項ではあるが、減る中でどう緩和していくのかの取り組みが重要になってくると現時点では考えている。

(九笹委員)

次回の審議会で素案が出てくるのか。

(事務局)

スケジュールをお伝えすると、7 月までに現状の課題整理や町民アンケートを行い、それらを踏まえて 8 月中に素案という形でまとめさせていただいたものを、9 月に素案としてお示ししたいと考える。

(九笹委員)

資料 3 の当別町人口ビジョン改訂版は、既に公開されて確定したものという理解で良いか。

(事務局)

ご認識のとおりである。

(高橋委員)

当別町がどんなところかを考える中で、本庄陸男氏の小説を読ませていただき、彼は元々教師であり、「資本主義下の小学校」を書いたことで解雇され禁書になったが、読んでみたところ、同じような教育でなく、各人に応じた教育が必要であると語っていた。当別町のモットーは、データ面以外にも、町としてこういうことができるという点を強調していかないといけない。外国人も増えてきているが、ただ学校ができるだけでなく、中身のある教育が何か、人間を育てる町としても PR いただきたい。

(下段会長)

ご意見ありがとうございます。

(松岡良尚委員)

スケジュールについて、町民アンケートはこれから実施となるか。アンケート内容は審議会としては確認しなくて良いか。分析結果で初めてアンケート内容を知ることになるが、どういう内容のものか。

(事務局)

アンケートについては 6 月広報に掲載しているほか、ホームページでも広く周知していく。QR コードを掲載し、スマホで簡単に回答いただける形としている。アンケート内容としては、町民意見を聞いていく想定で、町側で設定したものとなっている。

(高橋委員)

一昨日、別の会議に参加した際、同じく町民に意見聴取する旨を伺っており、中身の調整はこれからと聞いたが、同じような重複がないよう、庁内で調整して策定いただいた方が良く考える。

(佐藤委員)

町民アンケートは、前計画を評価した上で設定すべきと考えるが、総括評価は今後のスケジュールのどこで考えているか。

(事務局)

総合戦略は毎年推進委員会で現状課題と今後の取り組みを整理しながら、KPI の達成状況を管理している。令和 7 年度の実績をまとめている中で、昨年実績も踏まえて町民アンケートを設定して実施する内容となっている。

(佐藤委員)

対象は全世帯か。

(事務局)

当別町民であれば誰でも対象としている。

(松岡宏尚委員)

総合計画と町長の方針においてどちらが上という考えはあるか。

(事務局)

総合計画は町の最上位計画として位置付けられる今後 10 年間の計画であり、まちづくり

の方向性を示すものとして総合計画が尊重される。

(松岡宏尚委員)

総合計画は網羅的なものと理解しているが、町全体のブランドづくりまで踏み込んで良いのか、あるいは教育や子育てを推進していくブランディングがある中で、そこまで落とし込むか。今後、将来的に違うことが起きていく中で、長期すぎかつ網羅的すぎて伝わりにくいことを懸念している。総合戦略にて軌道修正はあると思うが、ブランドづくりまで踏み込むものか。また、仮に教育に特化していくとすると、専門部会の立ち上げも検討されるのか。

(事務局)

基本構想と基本計画があり、基本構想は10年間の方向性を示している。それを具体化したもの、地方創生に向けて推進していく事項は総合戦略としており、その中で具体的なものを示している。加えて個別計画もあり、それぞれにどこまで落とし込むかは検討していく。また、専門部会は今後の議論の中で必要があると判断されれば検討する。

(松岡宏尚委員)

ブランディングはKPI達成につながると考える。基本構想を理念として置くのか、計画の構想として置くのか、理念であれば10年で良いと考える。総合戦略について、戦略目標は5年設定か。また、KPIの基準値はいつを設定するイメージか。

(事務局)

第3期の総合戦略は5年間。KPIの基準値は令和6年度か7年度の数値設定となる見込み。

(松岡宏尚委員)

先ほどもあったが、337号線がいつ繋がるか、RapidusによってKPIも変わってくると考える。KPIは、達成・未達成によって何かというものはあるか。また、これは誰に対して設定されているのか。行政+町民であれば、町民みんなで取り組んでいくべきであるが、知っている方は少ないと感じる。KPI設定について、例えば地価向上という内容が入ってくるのではと考える。固定資産税は町の収入となる。そのあたりの設定も見直していけたら良いと感じる。現行の総合戦略のKPIにはトップアスリート育成人数が設定されていたり、そこは知らなかった。情報共有いただけたら良いと考える。

(事務局)

まず、目標達成は当然町民と一緒にやる姿勢が必要であり、例えばコミュニティバスの利用者増加も、どう進めたら増えるかを町民と考えて進めたい。他自治体でどう設定しているのかも見て考えていきたい。またKPIは、どこに人と予算をかけるかだと考える。例えば未達成によりリソースを投入するのか、その判断も課題である。事業によって、達成・未達成の難易度は異なっており、この辺りも慎重に考えたい。また、予算が連動するようであれば気にしていくところであり、事業を絞ったKPIにすると動きにくい側面もあり、複数事業で達成できるKPIなど、まずは皆様に示せる案を作っていきたい。

(6) 策定スケジュールについて

事務局より資料 4 をもとに説明（説明：星野課長）

(7) その他

次回審議会日程については改めて調整のご連絡をさせていただく。

以上